

2024年度 昭和大学 II期

【 講 評 】

昨年度に続き、今年度も大問 2 問の構成。大問 1 の問題文は、文化人類学に関する読みやすい内容の文章だった。設問も、空欄補充問題、記述式の内容説明問題、理由説明問題とオーソドックスな出題である。大問 2 の問題文も、タコの感覚に関する比較的読みやすい翻訳文だった。だが、傍線部を具体的に説明する問題や傍線部の理由を記述する問題が大半であり、難易度は高い。したがって、普段から抽象度の高い文章を読解し、内容を正確に把握することに加え、私大型の客観問題だけでなく、国公立 2 次試験で出題されるような記述問題を解く経験を積んでおく必要がある。

【 解 答 】



- 設問 1 他から切り離された個別の身体
- 設問 2 オ
- 設問 3 ウ
- 設問 4 個別の身体に生じるのに、他の人々に影響を与える点。
- 設問 5 人体を「個別の、閉じた体系を持つ存在」とみなしていたから。
- 設問 6 ウ
- 設問 7 エ
- 設問 8 ウ
- 設問 9 人々は医療効果が望めない状態になるとニンギトウに頼ったこと。
- 設問 10 イ
- 設問 11 ウ
- 設問 12 ア
- 設問 13 2
- 設問 14 a=困窮
b=対照
c=成熟
d=諦
e=名残

- 設問 1 人間の意識は、その先駆けとなるいずれかの生物に現れたきわめて簡単な内的な経験のようなものが時間をかけて進化した結果生じたということ。
- 設問 2 知覚や記憶は、原始的で簡単なものから非常に複雑なものまで様々であり、これ以上複雑ならば本当の知覚や記憶であるという線引きがないから。
- 設問 3 自分の存在を自分で感じるという主観的経験は、あくまで人間に特有の経験であり、動物が感じているかもしれない何らかの「気分」とはまるで違ったものである以上、動物の経験と比較すること自体不可能だから。
- 設問 4 ウ
- 設問 5 廃棄物を海に流しても、それが広く拡散し、薄まってしまうように、人間がどのような活動をしていても、海が目に見えて変化することは少ないから。
- 設問 6 漁業資源の乱獲が続き、魚が激減した湾を禁漁区に指定し、野生生物を完全に保護した結果、魚類をはじめとする数多くの生物が戻ってきたこと。
- 設問 7 資源の回復能力を見極めた上で、漁業資源をどの程度利用することが可能なかを判断し、適切な漁獲量を決定することが非常に困難であること。
- 設問 10
- Ⓐ 精緻
 - Ⓑ 中途半端
 - Ⓒ 誤解
 - Ⓓ 破壊能力

お問い合わせは ☎0120-302-872

<https://keishu-kai.com/>